

L5 再婚

歳

(1年内なら 月)

L5 再婚されたことがありますか

はい →

いいえ

a 何歳の時ですか

L6-1 配偶死亡①

歳

(1年内なら 月)

L6 (すでに情報が得られている場合には質問せずに記入する)
これまでに奥様(ご主人)と死別されたことがありますか

はい →

いいえ

a 奥様(ご主人)が亡くなられたのはあなたか何歳の時でしたか

[他にあれば2人目の奥様(ご主人)について聞く]

a 亡くなられたのはあなたか何歳の時でしたか

L6-2 配偶死亡②

歳

(1年内なら 月)

L7 就職

歳

(1年内なら 月)

L7 あなたのお仕事についてうかがいます。
これまで収入のある仕事につかれたことがありますか

はい →

いいえ
→ L11へ
(次ページへ)

a 最初に仕事についたのは何歳の時ですか

A 常勤・正社員ですか、パート・タイムですか

1 常勤・正社員 2 パート・タイム
3 その他

B どんなお仕事ですか

()

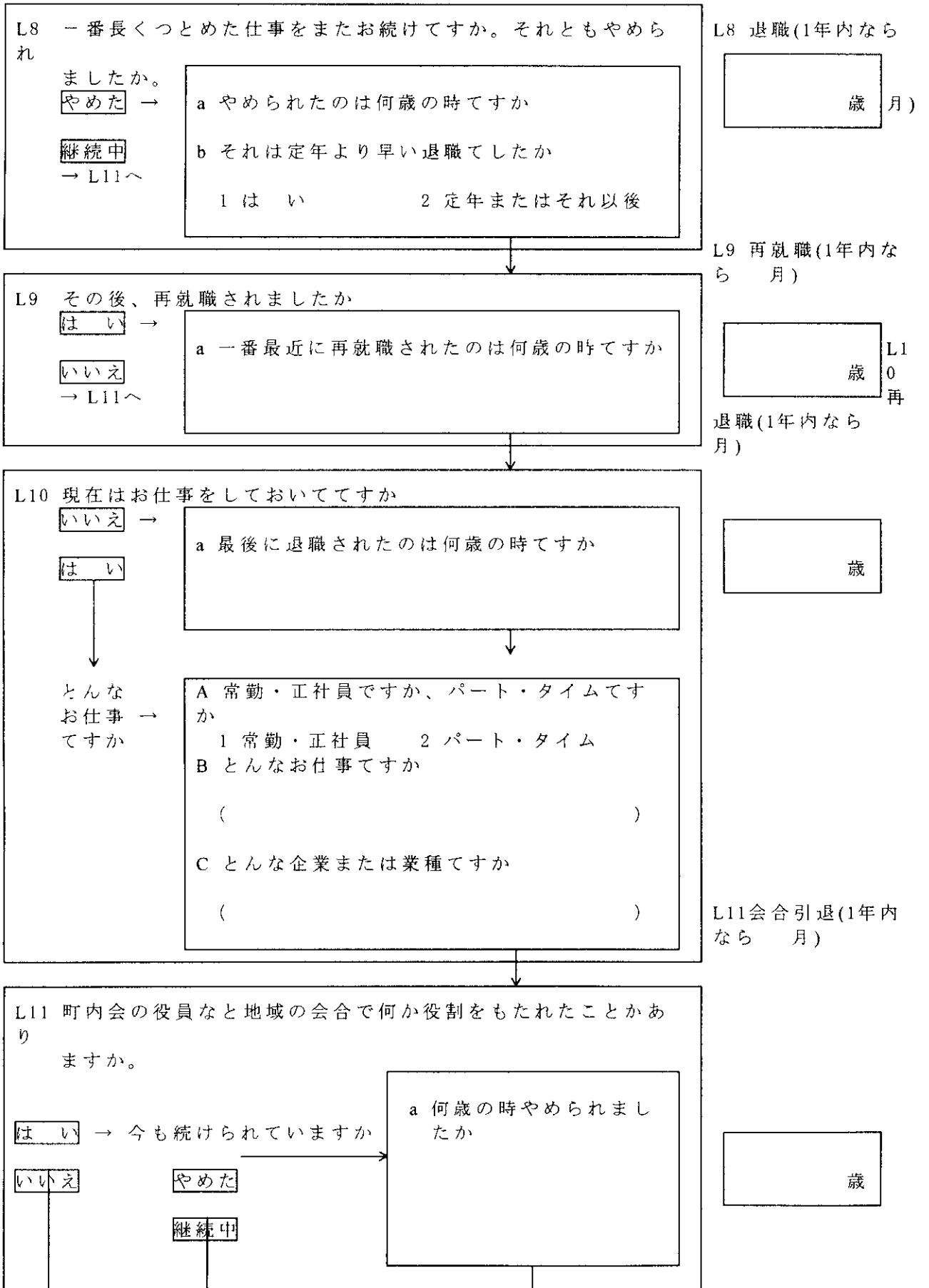
C どんな企業または業種ですか

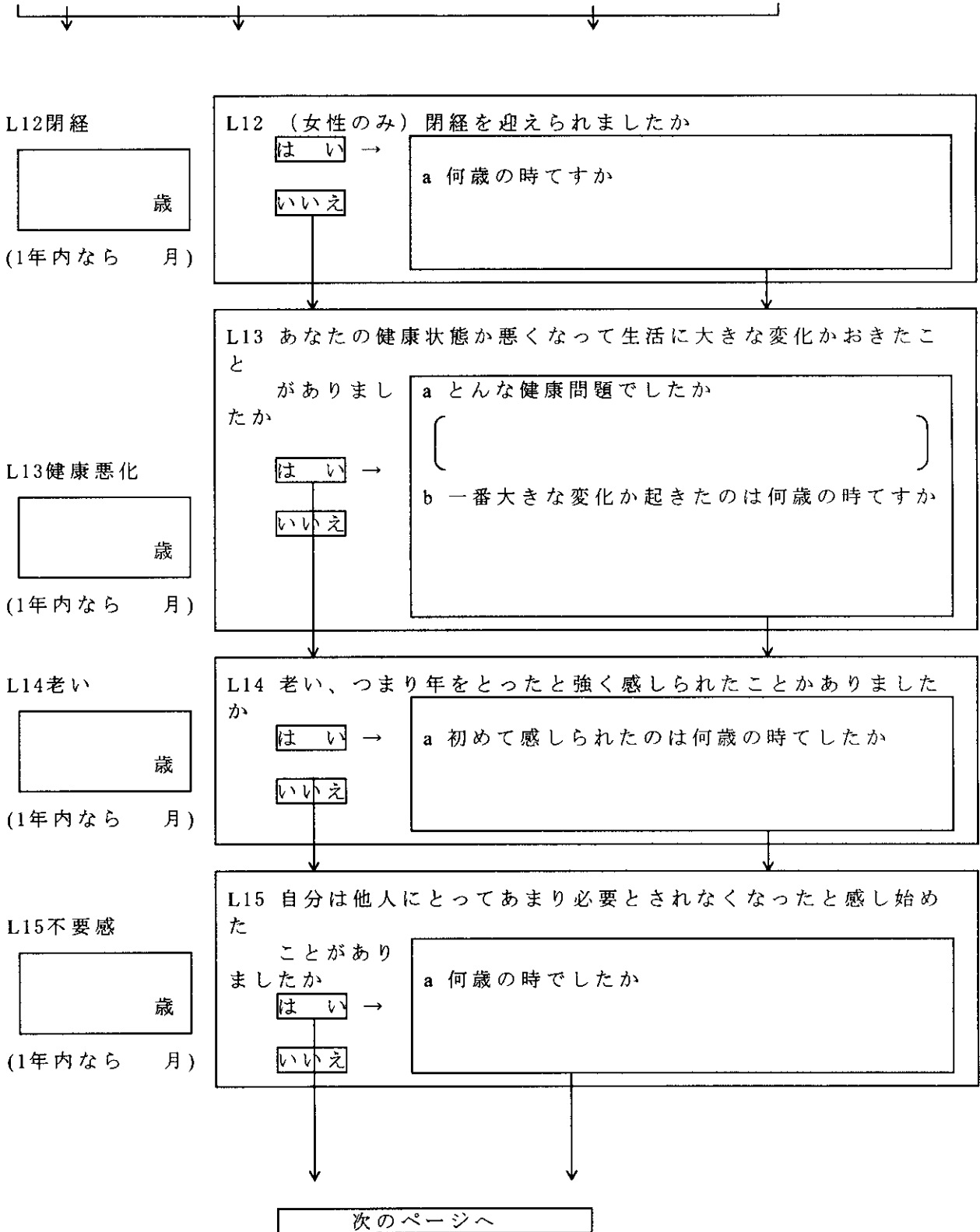
()

D 何年勤められたことになりますか

() 年

注 農業や自営は含める。主婦や学生は除く。学生バイトも除く。





L16 次にお子さんについてうかがいます。お子さんはおられますか

亡くなったお子さんも含めて下さい。

あり →

なし → L25へ (次ページへ)

a 全部で何人ですか。

[] 人

b 最初にお子さんか生まれたのは、あなたか何歳の時ですか

↓

a 最後にお子さんか生まれたのは、あなたか何歳の時ですか

子供か2人以上なら 子供か1人なら

→ L17へ

L16-1 最初の子供(1年内なら)

[] 歳

月)

L16-2 最後の子供(1年内なら)

[] 歳

月)

L17 亡くなられたお子さんかおいてになりますか。

はい →

いいえ

a 亡くなられたのは、あなたか何歳の時ですか

他にもおられますか

a 亡くなられたのは、あなたが何歳の時ですか

L17-1 子供死亡①(1年内なら)

[] 月)

L17-2 子供死亡②(1年内なら)

[] 歳

月)

L18 卒業(1年内なら)

[] 歳

月)

L18 お子さんは(全て)学校を終えられましたか

はい →

いいえ

a お子さんか最後に学校を終えたのはあなたか何歳の時ですか

[] 歳

L19 お子さんは (全て) 別居されましたか (親と同じ敷地以外で)

はい →

いいえ ↓

a 何歳の時ですか

L19子供別居(1年内なら
歳
月)

L20子供初結婚

歳

(1年内なら 月)

L20 結婚されたお子さんがおられますか

はい →

いいえ ↓

a 初めてお子さんが結婚されたのはあなたか何歳の時ですか

L24へ

L21子供全員結婚

歳

(1年内なら 月)

L21 お子さん達は全員結婚されましたか

はい →

いいえ ↓

a お子さんか全員結婚したのは (子供一人なら L22へ) あなたか何歳の時ですか

L22初孫

歳

(1年内なら 月)

L22 お孫さんはおいでになりますか

はい →

いいえ ↓

a 初孫かお生まれになったのはあなたか何歳の時ですか

L24へ

L23初ひ孫

歳

(1年内なら 月)

L23 ひ孫はおいでになりますか

はい →

いいえ ↓

a 初めてひ孫が生まれたのはあなたか何歳の時でしたか

L24子供同居

歳

(1年内なら 月)

L24 別に住んでいたお子さんと同居されはしめたことがありますか

はい →

いいえ ↓

a それはあなたが何歳の時ですか

L25 お父様（実父）は御健在ですか

死亡 →

健在

a お父様はおいくつでお亡くなりになりましたか _____ 歳

b あなたか何歳の時ですか

L25父死亡

_____ 歳

(1年内なら 月)

L25母死亡(1年内なら 月)

L26 お母様（実母）は御健在ですか

死亡 →

健在

a お母様はおいくつでお亡くなりになりましたか _____ 歳

b あなたか何歳の時ですか

L27-1友人死亡①(1年内なら 月)

_____ 歳

L27 親しい同年輩の友人はみなさん御健在ですか

たれか死亡 →

みんな健在

[最初の友人の死亡について聞く]

a あなたか何歳の時でしたか

[他にあれば2人目の友人について聞く]

a あなたか何歳の時でしたか

L27-2友人死亡②(1年内なら 月)

_____ 歳

L28 これまでの人生でこれまてうかかった以外に、あなたにとって

重大なできごとがありましたか

はい →

いいえ

a それは何ですか（一番重要なもの1つ）

b 何歳の時ですか

L28重大事(1年内なら 月)

_____ 歳

資料2 社会的支援調査票（甲府調査のものを岐阜調査で修正した）

毎日の生活の中で、あなたの周囲には例えばこれらの方がおいでになると思います。

S1 会っていて肩のこらない人、一緒にいても普段通りに振るまえる人がおいでになりますか。それはどなたですか。

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁・婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

S2 あなたのことをよく理解してくれる人、分かってくれている人がおいでになりますか。それはどなたですか。

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁・婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

S3 あなたの最も内面の気持ちを信頼して打ち明けられる人、他人にはとてもいえないような気持ちでも話せる相手がおいでになりますか。どなたですか

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁・婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

S4 あなたに嬉しいことかあった時に、その喜びを分かちあえる人、あなたか幸せたという理由だけで幸せを感じてくれる人がおいでになりますか。どなたですか

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁・婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

S5 あなたが困ったときや迷ったときに、冷静で適切な助言や指導をしてくれる人か

おいてになりますか。となたてですか。

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁 婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

_____名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

S6 仕事か手いっぱいして間に合わない時や、とてもやれないとかやりたくない時に、あなたにかわって仕事をしてくれる人かおいてになりますか。となたてですか。

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁・婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

_____名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

S7 困ったときや迷ったときは、そのことをたたしやへってしまえば気持ちか落ち着

くことがあります。そういう人かおいてになりますか。となたてですか。

○をつける

- 1 妻（夫） 2 実父母
3 義父母 4 子供
5 嫁・婿 6 友人・知人
7 その他

全部で何人いますか

_____名

このことについて、今の状態に満足しておられますか

- 1 非常に不満 2 やや不満
3 やや満足 4 非常に満足

資料3 精神保健サービス利用調査票（疾患特異版）（米国 National Comorbidity Survey および
岐阜調査より）

D48 これまでに、（キーワード1）と感し、このページにあるこれらの問題が起こった時、精神科ではないお医者さんに相談したことがありましたか。（医者には、内科医、整骨医、医学生、整骨医学生を含む。）

定義 「医者に相談する」とは、直接、医者と電話で話すか、会って話すことである

はい

いいえ → D51へ（次ページへ）

D48a はじめて、この期間についてお医者さんに相談したのは何歳の時でしたか
() 歳

D49 この期間のために、お医者さんから薬を出してもらいましたか

定義 薬をもらうために医者の処方箋を必要とするものをいう

はい

いいえ → D50へ（次ページへ）

D49a はじめて、この期間のためにお医者さんから薬を処方されたのは何歳の時でしたか
() 歳

D50 これまでに、この期間についてお医者さんに専門家に診てもらうように言われたことありましたか。（専門家とは精神科医、心理学者、カウンセラーのような心の問題）

はい

いいえ → D51へ

D50a はじめて、お医者さんに専門家に診てもらうように言われたのは、何歳の時でしたか
() 歳

D51 これまでに、この期間について心の問題の専門家に診てもらったことありましたか。（心の問題の専門家とは、精神科医、心理学者、カウンセラーのこと）

はい

いいえ → D52へ

D51a はじめて、この期間について心の問題の専門家に診てもらったのは、何歳の時でしたか
() 歳

D52 これまでに、この期間について他の専門家に相談したことがありますか。
(他の専門家とは、看護婦、法律の専門家、牧師、住職、のこと)

1 はい 5 いいえ → D53へ

D52a はしめて、この期間について他の専門家に相談したのは何歳の時でしたか
() 歳

D53 これまでに、この期間のために、2回以上薬を飲んだことがありますか。

定義 「薬」とは、薬局で購入したり友達からもらったり、医者から処方されたり、不法に手に入れたり、とにかく手に入れた薬をさす

1 はい 5 いいえ → D54へ

D53a はしめて、この期間のために、2回以上薬を飲んだのは何歳の時でしたか
() 歳

D54 これまでに、この期間のために、あなたの生活、仕事または活動にどの程度支障がありましたか。それは、かなりありましたか、いくらかでしたか、少しでしたか。全くなかったですか。

1 かなり 2 いくらか 3 少し 4 全くない
→ D55へ

このために合計何日くらい仕事を休んだり、家事ができなかった日がありましたか。 _____ 日

D55 (キーワード1)と感じた期間のうち、仕事ができなかったり、友人や親戚と会うことができなかったりするくらい調子の悪いことありましたか。

1 はい 5 いいえ

D56 (キーワード1)と感じたこの期間のために入院したことがこれまでにありましたか。

1 はい 5 いいえ → D58へ

D56a はしめて入院したのは何歳の時でしたか
() 歳

資料4 精神保健サービス利用調査票（疾患非特異版）（National Comorbidity Survey および岐阜調査より）

W1 黄色い冊子の16ページをみてください。ストレスの増加によって、たくさんの人が精神的に不調になったり、お酒の飲み過ぎになったり、こころの病気になったりしています。こうした場合には、相談できる人や、場所がいくつかあります。こうした人や場所かどのくらい利用されているか知りたいと思います。

これまでにうかかったことと重複するかもしれませんか、あなたは、生まれてからこれまでに、ここに書いてある1～12番までの人達に、どんなことでも結構ですか、ストレス、こころの健康、あるいはお酒の問題について相談したことがありますか。

1 はい 5 いいえ --> W2へ（次ページ）
↓

W1a それはどれですか？ あげられたものの番号に○をつけ、b～dをたずねる。終わったら「他にはありませんか」ときく。	W1b この12か月には 相談しましたか？	W1c この12か月には何回くらい相談しましたか？	W1d それは役にたちましたか？
1 友人や親戚	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
2 お寺の住職さんや教会の牧師さん等	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
3 内科の医師	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
4 外科、産婦人科、耳鼻科などの医師	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
5 精神科の医師	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
6 臨床心理士、カウンセラー	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
7 ソーシャルワーカー（社会福祉士）	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
8 保健婦、看護婦	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
9 針灸・整体や漢方の専門家	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
10 薬局などの薬剤師	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
11 お払い、口寄せなど巫女さんや霊媒師	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
12 その他の専門家	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ

W2 いま、うかかったことと重なる場合もあると思いますか、あなたは、生まれてからこれまでに、ここに書いてあるア～シまでの場所に、ストレス、こころの健康、あるいはお酒の問題について相談したことがありますか。

1 はい 5 いいえ --> W3へ

W2a それをとれてす か？ あげられたものの番号 に○をつけ、b～dを た すねる。終わったら 「他にはありませんか」 ときく。	W2b この12カ月に は 相談しましたか ？	W2c この12カ 月 には何回くら い相談しまし たか？	W2d それは役に たちましたか ？
ア 学校や会社の保健室	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
イ 精神科以外の開業医 や外来	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
ウ 精神科の開業医 や外来	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
エ 病院の救急外来	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
オ 病院の入院病棟	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
カ 心理のクリニック	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
キ 保健所、精神保健 福祉センター	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
ク 社会福祉事務所、 児童相談所	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
ケ アルコール専門外来	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
コ 電話相談 (いのちの電話など)	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
サ 自助グループ 同じ 問題で困っている人の集まり	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ
シ その他の場所	1 はい 2 いいえ (dへ)	回	1 はい 2 いいえ

Ⅲ. 資 料

19990056

P 93-148 は図書等に掲載された論文となりますので下記の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

「研究成果の刊行に関する一覧表」

疫学研究の倫理審査のための国際ガイドライン
国際医科学機構協議会 (CIOMS)
1991 年

The World Mental Health 2000 Study: WMH2000

この文書は WMH2000 研究の紹介である。この研究は世界保健機構の ACE（評価、分類、疫学）グループの主導によるものであり、一般人口における精神障害、物質使用障害、行動障害の疫学研究を、WHO 加盟国の中から少なくとも 18 カ国において、2000 年中に行ない、その実施と分析をコーディネートする。

論理的根拠

WHO Global Burden of Disease Study（WHO 世界疾病負荷研究）では、精神障害と嗜癮が、世界的に見て最も負荷となっており、近い将来よりその負荷が増大するであろうとみている。しかしその評価と予測は、大部分が文献考察によるものであり、各国間の比較疫学研究によるものではない。精神障害による全世界の負荷を標的とした公衆衛生活動を前進させるために必要なのは、精神障害の有病率を見積もり、ねらいを絞った介入のために危険因子を評価し、サービス利用のパターンとそれを妨げる要因を研究し、世界規模での疾病負荷の適切な評価を得るために、各国で一般人口調査を実施することである。

目的

WMH2000 は、精神障害、物質常用障害、行動障害の有病率とその関係性について、正確に国家間比較の出来る情報を得ることを目的とする。それはこれらの障害による全世界的な負荷を正確に見積もり、これらの障害の治療パターンについて研究し、治療を妨げになるものを正確に指摘するためである。現在、18 カ国で約 95,000 件の面接が予定されており、さらに交渉中である。

調査は 2000 年中に参加国で実施される予定である。

協力者（参加国） [略]

調査法（以下、抄訳と解説）

Sampling [標本抽出]

- ・ 18 歳以上の対象者、最低 5,000 人分の完全な面接を達成できるように計画する。
- ・ 世帯単位の調査を想定し、施設収容者や、グループホーム居住者、軍隊、その他の世帯ではない居住形態にいる世帯員は除外する。
- ・ 標本は、定められた調査対象母集団の中で、世帯単位の、代表性のある確率標本でなくてはならない。つまり、割り当てて標本を取ったり、他の調査のために商業ベースで集めた応募者から、連絡の取りやすいものを選んではいけない。
- ・ 調査面接は抽出された対象者に対して個別（1対1）に行なう。
- ・ 住民登録のある国ではそれを利用した標本抽出が最適である。標本抽出デザインは、調査対象母集団の中の、地域に住む世帯の多段地域確率標本に基づき、高度の多段抽出過程が必要である。標本抽出の各段階では、標的となる母集団から代表性のある標本が確

実に得られるように、確率に基づく方法が実施されなければならない。

- ・個人識別情報を除いた、標本のマスターファイルのコピーは、面接が始まる前に WMH2000 のコーディネートセンターに送られ、共有される。標本のマスターファイルには、個人識別情報は含まれないが、それぞれの世帯／個人の対象には、個別の識別番号をつけなくてはならない。
- ・回収率は最低限を 65% とする。すなわち、適合した対象者の 65% の面接がなされることか期待されている。
- ・参加サイトでは小規模な予備調査を約 50 人について行なう。予備調査の対象は手近なものでもよいが、18 歳以上の、母集団を代表するものでなくてはならない。予備調査が終わったら、予備調査のデータは WMH2000 のコーディネートセンターに届ける。
- ・電話での接触の試み、最終的な意思表示、被面接予定者の性と年齢についての詳細な情報を含む、世帯レベルの完全なデータファイル（標本統制ファイル）は、これらの世帯に対する面接が完了したか否かにかかわらず、すべての対象世帯について、研究終了時点で提出する。

〔解説〕ここでコーディネーターが最も気にしているのは、なるべく厳密に標本抽出をして、ある程度以上の回収率を達成することである。日本のように住民登録台帳のある国では、それが抽出の基礎となる枠（フレーム）として使えるのでその点はあまり問題はない。県から市町村、その中の地区、世帯、世帯員と辿っていけば、コーディネーターの要求する抽出法は可能である。しかし世界各国で同じ調査を行なおうとすると、必ずしもそのようなフレームを得ることがたやすい国ばかりではない。原文にはそのような場合の標本抽出法が細かく指示されている（省略）。標本抽出の仕方を統一し、得られた値の誤差をなるべく正確に推定することかてきるようにしたいのであろう。また、調査不能群については、分かるデータを最大限報告するよう求めている。つまり、どのくらい代表性のある調査データが得られているかを確認したいということが最も重視されている。

Interviewer Training [面接者の訓練]

- ・面接者は、経験豊富であるか、質の高い学問的な調査機関で行われているものと同等の、しっかりとした面接訓練を受ける。
- ・調査地における訓練者養成のため、5 日間の英語による「訓練者のための訓練」がシュネーフその他で開かれる。訓練者は本国語と同じように英語に熟達していなくてはならない。訓練者は地元に戻り、ジュネーブで配布される WHO の資料を改訂して、地元での訓練を実施する。
- ・現地での面接訓練は、丸三日を要する。WHO からの観察者が、地域ごとの全ての訓練に参加する。訓練の最後に行なわれる、標準に達していることを示すためのテストに合格しなければ、面接者は研究に参加し、活動することはできない。

Recruitment [対象者の募り方]

- ・被調査者と最初に接触する前に、各被調査予定世帯に、研究概要のパンフレットとともに挨拶状を郵送する。
- ・最初の接触を取るための試みは、ほとんどすべての抽出された対象世帯に接触できるような回数とする。アメリカでは、1 日の中の時間帯や曜日を変えながら、15

回行なわれる。

- ・調査拒否を翻させる試みは、拒否している世帯すべてに対して行う。拒否しているケースには特別な手段や報奨金を用いてもよい。
- ・選ばれた世帯や調査対象者、あるいは近所の住人のような情報提供者に、電話や直接に接触をとった場合、面接者は何日の何時に電話や訪問をしたか、その結果はどうだったか、電話をしたのか訪問したのかを、面接者のコメントとともに記録する。記録は、面接者以外の人を読んでも、その被調査世帯への電話や訪問の経緯と性質が理解できるように、詳細なものでなくてはならない。
- ・参加サイトにおいて面接者は、面接を開始する前に、対象者に対して、自発的参加であることを述べた文書を読みあげるようにする。
- ・面接終了時に、面接の回答者にはその地域の精神保健その他の公共資源とその連絡先のリストを提供する。
- ・面接の後で、礼状（はがき）を各被面接者に出す。礼状の中身は、WMH2000 コーディネートセンターの職員と相談し、承認されたものとする。
- ・面接者は回答者にフルネームと現住所および電話番号をきくこと。この情報は妥当性検討に用いられる。この情報は電子化したファイルにして、5年間保存する。

【解説】ここでは、抽出した対象者への具体的な接触法が指示されている。接触不能や拒否をなるべく減らすことが重要であり、また、接触できないものや拒否者について、どんな理由で調査できなかったかを詳細に記録するよう求めている。これも標本の代表性にかかわるデータをなるべく把握しておきたいということであろう。

Survey Mode [調査のやり方]

- ・面接は対面で、原則として被調査者の自宅で行われる。ただし、地域の事情によっては、面接を別の場所でも実施することもできる。例えば自宅よりも勤務先で昼休みに面接したほうが都合がいい人もいる。
- ・Blaise software system 又は WHO I-shell による、コンピュータを用いた面接 (CAI) が利用可能である。

Survey Content [調査内容]

- ・調査では、World Health Organization Composite International Diagnostic Interview、Version 2.1 (WHO-CIDI) を使用する。WHO-CIDI は、非専門家であっても ICD-10 と DSM-IV 両方の診断基準による精神科診断を下すことができる面接方法である。2.1 版は以前の版の全てであった診断セクションに加えて、より広い範囲のモジュールを含んでいる。2000 年 1 月の段階では、43 の領域がある。これに加え、慢性的身体健康状態、サービス利用のパターンと要因、精神障害の社会的影響、公的な保健事業について質問する。
- ・全ての面接を終えるのに、平均約 90 分を要する。
- ・各地域で、核になる面接測定法に他の項目を独自で追加することができる。この追加項目は、それが核となる面接測定法に加えるかどうかの決定を共有するために、他の地域になるべく早く伝達されなければならない。このことによって、調査結果

の各国間比較の可能性を増大することが期待される。

- ・ CIDI 質問紙は、翻訳されていないければ、WHO の標準翻訳プロトコルを用いて、参加各国で自国語への翻訳を行なう。

Field Quality Control [現場での品質管理]

- ・ 全ての被面接者には面接の後、調査の管理者からの感謝の言葉と、面接が完了していない場合に被面接者が中央事務所に知らせるための返信用の電話番号を記載した葉書が送られる。
- ・ 面接者ごとに、面接が完了した被調査者の 10 人に 1 人を無作為に選んで再接触し、面接者が回答を捏造しなかったかどうか、質問の中から無作為に選んで質問する。もし偽造データがみつかったら、その面接者の面接はすべて取り直す。

[解説] ここでは、面接者の仕事の評価を行なうことが決められている。札状とともに、本当に面接に行ったかどうかを管理者が確認するための手続きと、行ったとしても全ての回答を正確にとっているかどうかを確認するよう求めている。

Validation [妥当性検証]

- ・ 資金に余裕のある国では、共同研究者の臨床家によって、調査を完了した被調査者の中から 500 人を無作為抽出し、再び半構造化診断面接を行う。これは電話による面接でもよい。
- ・ 再面接は、本面接後一週間以内に実施されなければならない。
- ・ 妥当性検証面接では、WHO SCAN 診断面接か SCID を使用する。SCAN あるいは SCID 面接の訓練は、ジュネーブかあるいは参加国において、各国の主たる訓練者に対して集約して実施され、その後それらの訓練者が SCAN あるいは SCID 面接を行なう面接者の訓練をし、スーパーバイズする。

Post-Processing [後処理]

- ・ 完了した面接はすべて、調査の管理者が監修する。誤りのある面接は、訂正のため現場に戻される。場合によって管理者は、面接者か被調査者に直接電話で接触することがある。
- ・ CAI を用いていない場合には、紙と鉛筆を用いた面接結果は 2 人の独立のキーパンチャーによって入力されなくてはならない。不一致がある場合には、もとの面接結果に戻って訂正する。このプロジェクトに参加するキーパンチャーは、一致率 99% 以上の正確さを求められる。
- ・ データは ASCII 形式で、面接がそれぞれ 100、1500、3000、5000 名分完了した時点の 4 回に分けて提出する。最終的には、そのコミュニティの人口調査のデータもセットに入れておくこと。データ収集の全ての側面についての詳細な技術報告書も、最終的なデータセットとともに届ける。

[解説] ここでは面接結果を得た後のデータ処理について指示がある。ここでも、厳密な世帯単位の標本抽出ができない場合、どのような報告が必要かが細かく指示されているか、日本の場合にはあまり重要ではないので省略した。しかし、調査不能や拒否者について、できるだけのデータを入手することが

求められている。ここでの指示からは、全世界からのデータが集まったときに、抽出率や回収率などに基づいて重み付けをすることにより、より正確な疾病負荷の推定値を得ようとしていることが読み取れる。そのために必要なデータはすべて報告するよう求められている。

Rules of Collaboration [共同作業の規則]

- ・上記の調査説明書に加え、共同作業のための規則が決められている。それは、データ保護の保証、オーサーシップに関連する問題の処理、コーディネートセンターの資源（リソース）の平等な利用のためのものである。

Funding [資金提供]

- ・原則として、参加国がそれぞれの国における調査実施に必要な資源を用意する。WHOは規則の範囲内で、参加国のセンターが他の資金を獲得するのを手伝う。
- ・WHOは、調査者の会合、訓練のためのミーティング、現場での調査の質の保証を援助し、また、データ収集の手段、データの転送、グループの連絡のためのインターネット使用についてのその他の活動を援助する。
- ・WHOはコーディネートセンターの活動を、データ分析と出版に関して援助する。すべてのデータはジュネーブのWHO/HQに提出され、各国間で同意されたプロトコルに沿って最初に処理される。
- ・WHOには、他の資金源からの調達ができない国におけるデータ収集作業を援助するための、限られた資金しかない。
- ・営利企業（製薬産業、調査団体など）やその他の組織からの資金提供は、どのようなものかを明らかにすべきであり、WHOの規則に従う。



The World Mental Health 2000 Study: WMH2000

This announcement introduces the World Mental Health 2000 (WMH2000) Study, an initiative of the Assessment, Classification, and Epidemiology (ACE) group of the World Health Organization that will coordinate the implementation and analysis of general population epidemiologic surveys of mental, substance use, and behavioral disorders in at least eighteen countries throughout all WHO regions in the year 2000

Rationale

The *WHO Global Burden of Disease Study* estimates that mental and addictive disorders are among the most burdensome in the world and that their burden will increase over the next decades. However, these estimates and projections are based largely on literature reviews rather than on cross-national epidemiologic surveys. In order to move forward with public health initiatives aimed at addressing the global burden of mental disorders we need to carry out rigorously implemented general population surveys that estimate the prevalences of mental disorders, evaluate risk factors for purposes of targeting interventions, study patterns of and barriers to service use, and validate estimates of disease burden world-wide

Aims

The WMH2000 aims to obtain accurate cross-national information about the prevalence and correlates of mental, substance, and behavioral disorders to produce accurate estimates of the global burden of these disorders, to study patterns of treatment of these disorders, and to pinpoint modifiable barriers to obtaining treatment. At present, there are commitments for about 95,000 interviews in 18 countries, with negotiations underway for additional participants. Surveys will be carried out in participating countries in the year 2000

Collaborators

Surveys that are independently planned for the year 2000 form the core of the WMH2000 Study. We solicit inquiries from investigators who are either already planning surveys that might be included in the initiative or who would be willing to seek support for such surveys from their federal governments

As shown in Table 1, the surveys currently in the consortium include both nationally representative surveys (e.g., in the USA and South Africa) and representative surveys